

# クロオビエビス (新称) *Sargocentron praslin* の 日本からの記録

岩槻幸雄<sup>1</sup>・吉野哲夫<sup>2</sup>・木村清志<sup>3</sup>

<sup>1</sup>〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1丁目1番地 宮崎大学農学部動物生産学科

<sup>2</sup>〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町千原1 琉球大学理学部海洋自然科学科

<sup>3</sup>〒517-0703 三重県志摩郡志摩町和具私書箱11号 三重大学生物資源学部附属水産実験所

(1998年3月13日受付; 1998年7月13日改訂; 1998年7月16日受理)

キーワード: クロオビエビス (新称), *Sargocentron praslin*, イットウダイ科

---

## 魚類学雑誌 Japanese Journal of Ichthyology

© The Ichthyological Society of Japan 1999

---

Yukio Iwatsuki\*, Tetsuo Yoshino and Seishi Kimura. 1999. A holocentrid fish, *Sargocentron praslin* from Japan (Perciformes: Holocentridae). Japan. J. Ichthyol., 46(1): 51-55.

**Abstract** A holocentrid fish, *Sargocentron praslin* (Lacepède, 1802), collected within a depth of 15-50 m off around Meitsu, Nango-cho, Miyazaki Prefecture (two specimens) and Okinawa I., Okinawa Prefecture (three specimens). Japan, constitutes the third record from Japan. Five specimens of *S. praslin* (143-189 mm in standard length) are herein described with a new Japanese name, Kuroobi-ebisu, and the two specimens from Miyazaki represent the northernmost record of the species.

\*Corresponding author: Yukio Iwatsuki, Laboratory of Marine Production, Department of Animal Science, Faculty of Agriculture, Miyazaki University, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan (e-mail: a0c102u@cc.miyazaki-u.ac.jp)

イットウダイ科イットウダイ属魚類の分類学的研究は、日本周辺水域では Shimizu and Yamakawa (1979) や林 (1993) により、西アフリカ沿岸からインド洋では Randall and Heemstra (1985) により行われてきた。最近 Randall (1998) はインド-太平洋における本属の分類学的再検討を報告し、Kotlyar (1998) も全世界におけるイットウダイ科の有効種のリストと分布について報告した。

Randall and Heemstra (1985) と Randall (1998) は、アヤメエビス *Sargocentron rubrum* (Forsskål) に類似する種群に、インドネシア、オーストラリア等のみ分布する *S. cornutum* (Bleeker)、東アフリカからポリネシアまでに広く分布する *S. praslin* (Lacepède) やスミツキカノコ *S. melanospilos* (Bleeker)、およびセイシェルや、マダガスカルなどにのみ分布する *S. seychellense* (Smith and Smith) を挙げ、これらを有効種として扱った。また、前者の報告で *S.*

*praslin* の新模式標本が指定された。さらに、両報告ともに Shimizu and Yamakawa (1979) のアヤメエビスの一部は *S. praslin* であるとみなし、琉球列島から得た自分たちの4標本に基づき、本種が日本に分布することを報告した。一方、林 (1993) は日本産イットウダイ属の検索表に *S. praslin* を含めなかった。したがって、本種の分布や特徴について日本では現在まで十分知られていなかった。

著者らは琉球列島および本州沿岸における魚類の分類学的再検討の過程で、琉球列島と宮崎県の日南海岸から、*S. praslin* と同定される5標本を採集した。これらの標本は日本における本種の3番目の記録であり、本報告ではこれら5標本を詳細に記載し、*S. praslin* に対して新和名クロオビエビスを提唱する。計測方法は、Randall and Heemstra (1985) に従った。標本は、宮崎大学 (MUFS: Miyazaki University, Fisheries Science) と琉球大学

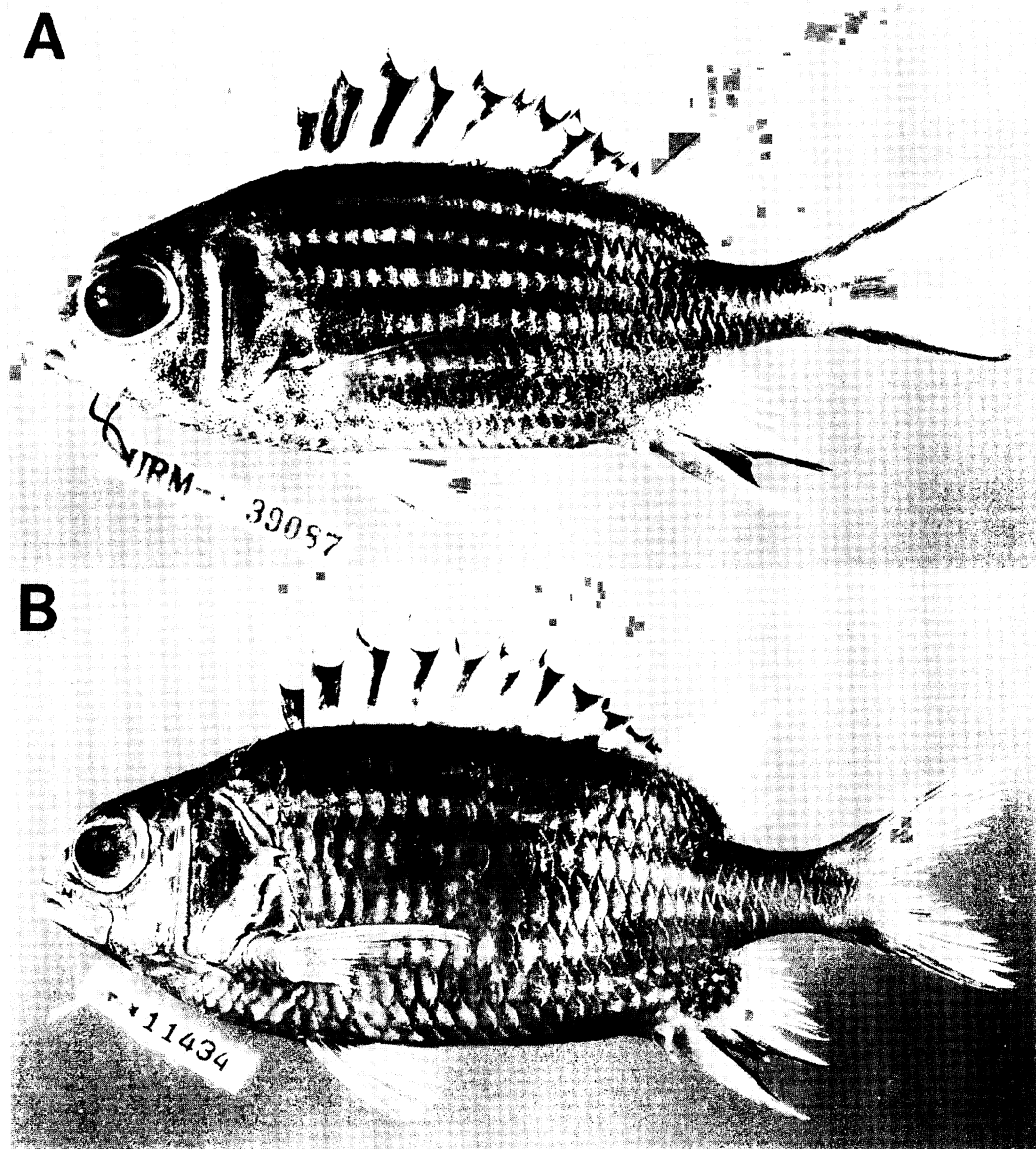


Fig. 1. *Sargocentron praslin* from Japan. A, URM-P 39087, 143 mm in standard length; B, MUFS 11434, 189 mm in standard length (pelvic fin rays are broken).

(URM: Department of Marine Sciences, University of the Ryukyus)にそれぞれ保管されている。

クロオビエビス (新称)

*Sargocentron praslin* (Lacepède, 1802)

(Fig. 1A, B)

*Perca praslin* Lacepède, 1802: 397 (Type locality, Port Praslin, Bougainville Is., New Britain).

*Holocentrus praslin*: Jordan and Seale, 1906: 225, fig. 26 (Samoa); Woods, 1953: 215 (Guam I. and Rota I.).

*Adioryx ruber* (not of Forsskål); Shimizu and Yamakawa, 1979 (in part): 126 (southern Japan).

*Sargocentron praslin*: Randall and Heemstra, 1985: 14, pl. 2A (east Africa to French Polynesia; designation of the neotype); Kotlyar, 1998: 174 (Indo-Pacific); Randall, 1998: 58, figs. 23, 25, pls. 5C, 10D (East Africa to French Polynesia).

標本 MUFS 11434, 1個体, 標準体長 189 mm, 宮崎県南郷町目井津大島, 大島東側沖水深 50 m 以浅, 大型定置網, 1995年11月2日採集, 採集者: 岩槻幸雄. MUFS 12420, 1個体, 標準体長

**Table 1.** Counts and proportional measurements of specimens of *Sargocentron prasin*

Standard length (mm)	MUFS 11434 and 1240 ( <i>n</i> =2) 153–189	URM-P 39087–39089 ( <i>n</i> =3) 143–169	Neotype* of <i>S. prasin</i> 134	Randall and Heemstra (1985) and Randall (1998) ( <i>n</i> =86 ex. +30 lots) 34–177 (206*)
Dorsal fin rays	XI, 13	XI, 13	XI, 13	XI, 12–13
Anal fin rays	IV, 9	IV, 8–9	IV, 9	IV, 8–9
Pectoral fin rays	14	14–16	13–15	13–15
Principal caudal rays, and upper and lower procurrent caudal rays	19; 6/5	19; 6/5	19; 6/5	19; 6/5
Lateral line scales	33–34	34	35	33–36
Scales above lateral line to base of middle dorsal-fin spines and scales below lateral line to origin of anal fin	2½; 7½	2½; 7½	2½; 6	2½; —
Diagonal rows of scales on cheek; and scales on opercle of a single vertical row	4; 6 or 9	4; 5–10	4; —	4; 8 or 9
Median predorsal and circum peduncular scales	6; 12	6; 11 or 12	6; 12	—
Body dark stripes when fresh	8 or 9	8 or 9	9	8 or 9
Gill rakers	7+11	6+9–11	6+10	6–8+10–12
As in standard length				
Body depth	2.59–2.73	2.69–2.77	2.8	2.6–2.8
Hesk length	2.86–2.89	2.64–2.81	2.8	2.65–2.9
Predorsal length	2.75–2.88	2.72–2.80	2.65	—
Preanal length	1.36–1.55	1.37–1.42	1.35	—
Prepelvic length	2.59–2.63	2.55–2.57	2.7	—
As in head length				
Body width behind gill opening	1.71–1.81	1.68–1.74	1.7	—
Snout length	4.71–5.04	4.65–4.91	4.7	4.4–5.1
Orbit diameter	3.09–3.11	2.71–2.84	2.65	—
Least width of interorbital space (measured anteriorly)	4.78–4.99	4.66–5.08	4.2	—
Upper jaw length	2.51–2.53	2.58–2.60	2.4	2.35–2.55 (2.4–2.5 in diagnosis and 2.3–2.6 in Key*)
Preopercular spine	4.00–4.07	3.88–4.78	4.0	3.7–5.8 in adults*
Least depth of caudal peduncle	3.47–3.57	3.84–4.24	3.7	—
Caudal fin length (measured horizontally)	1.47–1.62	1.42–1.50	1.6	—
First pelvic fin ray length	1.39–1.40 (right in MUFS 11434)	1.40–1.63	1.5	—
Pectoral fin ray length	1.39–1.40	1.31–1.36	1.45	—
First dorsal fin spine length	3.31–3.88	2.87–3.25	3.25	—
Second dorsal fin spine length	2.40–2.53	2.14–2.29	2.25	—
Longest dorsal fin spine length	1.92–2.12 (fourth or fifth, longest)	1.96–2.02 (third of fourth, longest)	2.1 (third, longest)	1.85–2.2
Last dorsal fin spine length	6.96–7.42	5.74–6.34	6.5	—
Second anal fin spine length	5.08–5.48	5.11–5.55	4.5	—
Third anal fin spine length (longest)	1.36–1.46	1.36–1.42	1.25	1.25–1.5
First anal fin ray length	1.51–1.67	1.42–1.66	1.5	—

\* Data after Randall and Heemstra (1985); no data indicated by ‘—’.

153 mm, 宮崎県南郷町目井津水深 15 m, 小型定置網(桝網), 1996年8月26日採集, 採集者: 岩槻幸雄. URM-P 39087-39089, 3個体, 標準体長 143-169 mm, 沖縄県那覇市沖縄県漁連市場, 1998年1月8日採集, 採集者: 昆健志・武井直行・関根正人.

**識別的特徴** 本種は, 背鰭中央部基部と側線間の鱗数が2½枚であること, 眼窩前縁直下の第1眼下骨上縁部に明瞭な1後向水平小棘をもつこと, 頬の鱗列数は4であること, 頭長は上顎長の2.3-2.6倍であること, 側線鱗数は33-36枚であること, 上顎先端が下顎先端より前に突出しないこと, 体側面に8-9本の暗黒褐色縦帯があること, 背鰭と臀鰭の軟条部基底付近, および尾柄部中央に明瞭な黒斑をもたないことによって同属他種から区別できる.

**記載** 計数形質および体各部の測定値を Table 1 に示した. 体は体高が高く, やや側扁し, 背鰭第3-第5棘基部直下で体高が最大になる. 頭部背側は強く突出する. 吻は短い. 上顎先端は下顎先端より前に突出しない. 上顎後端は眼の中央直下を越える. 眼は大きい. 頭長は吻長の4.65-5.04倍, 眼径の2.71-3.11倍, 上顎長の2.51-2.60倍. 鼻骨前縁に短い小後向棘がある. 鼻骨後部上縁に棘はない. 眼窩前縁直下の第1眼下骨上縁部に明瞭な後向水平小棘があり, 僅かに反り上がる. 前鰓蓋骨隅角部の棘は強大で, 後方に伸長する. 背鰭の棘条部と軟条部の間は深く欠刻する. 背鰭第3-第5背鰭棘が背鰭棘の中で最も長い. 背鰭第2-第3軟条が背鰭軟条の中で最も長い. 背鰭第1軟条は分枝しない. 臀鰭始部は背鰭第1軟条直下のやや後方に位置する. 臀鰭第3棘は強大でかつ最も長く, 臀鰭第1軟条が臀鰭軟条の中で最も長い. 尾鰭後縁は強く2又し, 上下両葉の後端は丸みを帯びる.

**体色** 生鮮時の体色は採集時の標本写真(MUFS 11434と URM-P 39087, 39088)に基づく. 体側および頭部は暗赤色あるいは赤褐色を呈し, 背部から腹部に向かって徐々に銀白色を帯びる. 体側面には8ないし9本(第1背鰭棘前方部にある背面上の1本を入れると, 9ないし10本)の細い暗色縦帯が認められる. このうち背側部の4ないし5本は明瞭な暗赤色で容易に確認できるが, 腹側部の数本はかなり不明瞭である. 背鰭棘状部鱗膜の上縁部は部分的に幅広で赤黒く縁取られる. 背鰭各棘先端部分直後に沿う鱗膜上縁は, 沖縄産の個体は白色(宮崎産の個体では鱗膜そのものが殆ど

ないので不明). 臀鰭第3棘から第1軟条間までの鱗膜は赤黒い. 尾鰭の上下両縁に沿って細い暗赤色縦帯がある. 上下両縁以外の尾鰭の大部分は, 宮崎産の標本では全体的に黒みがかかった赤色で, 沖縄産の標本では黄色みがかかった赤色. 腹鰭第1軟条は赤色で, 他の軟条は黄色みがかかった赤色. 胸鰭は半透明で赤色を帯び, 宮崎産の個体では上縁部の赤色が特に強い. 背鰭と臀鰭の軟条部基底付近, および尾柄部中央に明瞭な黒斑をもたない.

アルコール液浸標本の個体では, 頭部, 体側部, 背鰭, 胸鰭, 臀鰭, および尾鰭はともに黄色みあるいは銀白色を帯びた淡褐色である. また体側に6ないし7本の黒色縦帯が認められる(第1背鰭棘前方部にある背面直上の1本を含む). 背鰭棘状部鱗膜の上縁部は部分的に幅広で黒く縁取られる. 臀鰭第3棘と第1軟条間の鱗膜は黒い. 尾鰭上下縁に沿う細い黒色縦帯がある. 胸鰭腋部は黒い. 腹鰭第1軟条は, 沖縄産の標本では僅かに黒いが, 宮崎産の標本では黒くなく白い. また1個体(MUFS 12420)は腹鰭棘のみ少し黒みを帯びる.

**備考** 本報告で記載した5個体の計数形質および体各部の体長や頭長に対する相対比は, Randall and Heemstra (1985)や Randall (1998)が示した *Sargocentron praslin* の変異内であった(Table 1). しかし, 色彩については若干の相違点もみられた. 生鮮時の色彩について, それら2報告の写真では腹側面の暗赤色縦帯は明瞭であるが(Randall and Heemstra, 1985: pl. 2A; Randall, 1998: pl. 5C), 本研究で扱った宮崎産の標本では腹側面の縦帯は不明瞭で, 特に最大個体(MUFS 11434, 体長 189 mm)ではその傾向が著しかった. また尾鰭では, 沖縄産の標本ではかなり黄色みがかっていたのに対して, それら2報告の写真ではほとんど黄色みを帯びていない. さらに, Randall and Heemstra (1985)は腹鰭第1軟条は固定後黒く縁取られるとしたが, 宮崎産の標本は黒くなく, 沖縄産の標本では僅かに黒みを帯びる程度であった. これらの色彩の違いは, 地理的あるいは成長段階による色彩変異と判断される.

本種は東アフリカ沿岸からフランス領ポリネシアにかけてのインド-太平洋に広く分布し, これまでケニヤ, モザンビーク, モーリシャス, インド洋, コモロ諸島, マダガスカル, アルダブラ, スマトラ, バリ, ハルマヘイラ, ニューギニア, フィリピン, ソロモン諸島, パラオ諸島, フィジー, マリアナ諸島, ソサイエティ諸島, 台湾, 琉球列島等から記録されている(Randall and

Heemstra, 1985; Randall, 1998). 本報告は、日本における本種の3番目の記録であり、特に宮崎産の2個体は本種の北限記録となる。

クオオビエビスは、本種に最も類似するアヤマエビスと比較すると、前者では頬の鱗列数が4(後者では5)であることや体背側に黒色素を伴う明瞭な4ないし5本の暗色縦帯がある(後者では1ないし2本)ことで、容易に区別される(Randall and Heemstra, 1985; Randall, 1998; 本研究)。

#### 比較標本

アヤマエビス *Sargocentron rubrum* (Forsskål): MUFs 12137-12138. 2個体, 標準体長143-165 mm, 沖縄県西表島船浮湾水深約50 m, 釣り, 1996年5月11日。

#### 謝辞

本研究を行うに当たり、採集の便宜をいただいた宮崎県南郷町南郷漁協、中野義秋組合長と販売課の倉尾孝文氏、および同漁協所属の仲買人の門川安秀氏に厚くお礼申し上げる。さらに、*Sargocentron praslin*の写真同定や近似種の同定に関する情報をいただいた米国ハワイ州の元 Bishop MuseumのJ. E. Randall博士に対してお礼申し上げる。最後に、宮崎大学、琉球大学および三重大学の学生諸氏には、所蔵標本の再調査の際に協力していただき、またニュージーランドのテムズ在住のG. S. Hardy博士には、英文を校閲していただいたのでここで感謝の意を表したい。なお、本研究の一部は文部省科学研究費(10640684)によった。

#### 引用文献

- 林 公義. 1993. イットウダイ科. pp. 444-454, 1287. 中坊徹次編. 日本産魚類検索-全種の同定. 東海大学出版会, 東京.
- Jordan, D. S. and A. Seale. 1906. The fishes of Samoa, description of the species found in the archipelago, with a provisional check-list of the fishes of Oceania. Bull. Bureau Fish., 25: 173-455, figs. 1-111, pls. 33-53.
- Kotlyar, A. N. 1998. Species composition and distribution of holocentrids in the oceans of the world (Holocentridae, Beryciformes). J. Ichthyol., 38: 170-189. (Transl. from Russian: Voprosy Ikhtiologii, Vol. 38, No. 2, 1998, pp. 199-217.)
- Lacepède, B. G. E. 1802. Histoire naturelle des Poissons. Vol. 4. Chez Plassan, Paris. xlv+728 pp.
- Randall, J. E. 1998. Revision of the Indo-Pacific squirrelfishes (Beryciformes: Holocentridae: Holocentrinae) of the genus *Sargocentron*, with description of four new species. Indo-Pac. Fish., (23): 1-105.
- Randall, J. E. and P. C. Heemstra. 1985. A review of the squirrelfishes of the subfamily Holocentrinae from the western Indian Ocean and Red Sea. Ichthyol. Bull., (49): 1-29, pls. 1-2.
- Shimizu, T. and T. Yamakawa. 1979. Review of the squirrelfishes (subfamily Holocentrinae: order Beryciformes) of Japan, with a description of a new species. Japan. J. Ichthyol., 26: 109-147.
- Woods, L. P. 1953. Order Berycomorphida. Family Holocentridae: soldierfishes, or squarrelfishes. Pages 191-225, pls. 17-21 in L. P. Schultz and collaborators: E. S. Herald, E. A. Lachner, A. D. Welander, and L. P. Woods. Fishes of the Marshall and Marianas Islands. Vol. 1. Families from Asymmetronidae through Siganidae. Bull. U.S. Natl. Mus., (202). U. S. Gov. Print. Office, Washington D. C.